

総務委員会 報告資料

令和 6 年 9 月 2 6 日

報告事項件名	頁
1 令和 6 年度区民評価（令和 5 年度事業実施分）の実施結果について・・・	2
2 多子世帯支援等を検討するためのアンケート調査の実施（案）について・・・	6
3 基本計画策定状況及び今後の予定等について・・・・・・・・・・・・・・・・	8
4 S D G s 職員意識調査アンケート結果について・・・・・・・・・・・・・・・・	1 6
5 生成 A I 「G o o g l e N o t e b o o k L M」の利用について・・・・・・・・	2 0
6 自治体情報システムの標準化・共通化に向けた進捗状況について・・・・・・・・	2 1
7 転入者向け冊子（あだち はじめてガイド）の発行について・・・・・・・・	2 3

（ 政策経営部 ）

総務委員会報告資料

令和6年9月26日

件名	令和6年度区民評価（令和5年度事業実施分）の実施結果について				
所管部課名	政策経営部 政策経営課、財政課				
内 容	令和6年度区民評価（令和5年度事業実施分）の実施結果について、下記のとおり報告する。 ※ 詳細は、別添資料「足立区区民評価委員会報告書（抜粋版）」（以下「報告書」という。）を参照。				
	1 区民評価委員会の活動経過				
	(1) 活動期間：令和6年4月25日から令和6年8月23日まで				
	(2) 活動回数：全体会2回、各分科会21回の合計23回				
	(3) 評価の対象：重点プロジェクト事業（20事業） 一般事務事業（7事業） ※ 評価対象事業は別紙1 参照				
	2 重点プロジェクト事業の評価結果				
	(1) 5段階評価の結果（報告書P10～P35 参照）				
			令和5年度 (令和4年度実施分19事業)	令和6年度 (令和5年度実施分20事業)	令和5年度比
	全体評価	ひとと行財政	3.58	3.64	0.06
		くらしと行財政	4.00	3.93	▲ 0.07
まちと行財政		3.36	3.25	▲ 0.11	
(2) 分科会の主な評価・提言 各分科会からの主な評価と提言は、以下のとおり。					
ア ひとと行財政分科会 (ア) 各事業を担当される方々が支援の対象となる方の実態を十分に理解し、必要と思われるさまざまな取組みを計画し、取りこぼしなく支援しようとしていることは素晴らしい。 (イ) 多様性の時代となり、社会状況の変化も激しい昨今、これまでに効果を上げていた方法が必ずしも有効であるとは限らない。まずは事業をよりよいものとするための的確な課題分析を行い、その結果を踏まえて、より適切な方法に躊躇なく取り組んでいただきたい。					
イ くらしと行財政分科会 (ア) 協創を推進するためには、各所管課が関わっている関係機関や民間企業・団体の情報を庁内で共有し、所管課同士が協力して連携を強化することが求められる。庁内研修等に、情報共有や連携体制が強化できるような内容を盛り込んでほしい。 (イ) 情報発信では、SNSの発信回数が重視されがちであるが、					

区民にとって重要なのは、受け取った情報が具体的な行動に結びつくかどうかである。そのため、発信の質や工夫に注目し、区民が実際に行動に移せる成果を確認できるような取組の推進に挑戦してもらいたい。

ウ まちと行財政分科会

(ア) 地域コミュニティの強化については、住民を巻き込んだオープンな意見交換の場を増やすことで、世代・属性間、行政と区民の垣根を越えた新たな発想が生まれてくるのではないかと。

(イ) 予算や人員、時間に限りがある中で、やむを得ない部分もあるが、ある特定の世代や属性にアプローチする場合、とするとそれ以外の世代や属性などが置き去りになり、地域の協創を担う人材を確保するつもりが、却って世代間などの分断・格差を引き起こし、地域コミュニティの強化につながらない恐れがあることも念頭に置いてほしい。

3 一般事務事業の評価結果

(1) 評価結果の総括意見（一部抜粋、報告書P 38～P 46 参照）

ア 評価対象事業の必要性

(ア) 多くの事業で一定の必要性が認められる結果となった。

(イ) ただし、利用率が低い事業や活動が低調な事業については、区民生活への寄与度が高いとは言えず、事業の必要性が十分には認識されなかった。

イ 共通課題への対応

(ア) いくつかの事業において、地域コミュニティ（町会・自治会やボランティア団体、子育て活動の自助グループ等）の活動低下等が、事業目的達成の妨げになっているという共通課題が確認された。

(イ) 地域コミュニティに対して、事業の担当所管の積極的な働きかけが必要となるが、それとともに、時代の変化に合わせた柔軟な対応（例：関係機関との連携をさらに進めることや、同じような機能を持つ組織の集約等）が求められる。

ウ 事業内容・指標設定の改善

(ア) 事業目的と事業内容が必ずしも合致していない事業が見られた。

(イ) 事業目的の達成につながる指標設定がされていない事業や、達成が安易な指標が設定されている事業が確認された。

(ウ) 事業目的に沿った「事業内容の見直し」「指標設定の精査」を適切に進めてほしい。

	4 今後の方針 (1) 報告書は、ホームページや区内図書館等で公表する。 (2) 各事業における区民評価結果を踏まえ、各所管課が事業改善に取り組み、反映結果を令和7年2月に「行政評価の反映結果報告書」として報告する。
--	--

《令和 6 年度評価対象事業一覧》

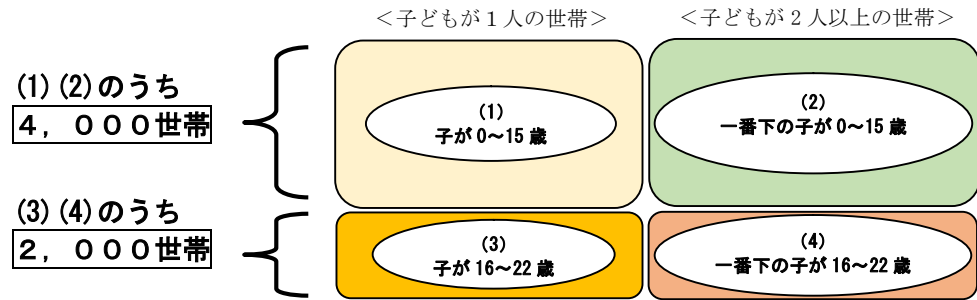
分科会	評価対象事業
ひとと行財政	1 学力向上対策推進事業（個に応じた学習の充実） 2 不登校対策支援事業 3 若年者全力応援事業 4 就学前教育・保育施設の質の維持・向上 5 学童保育室運営事業 6 ひとり親家庭総合支援事業 7 人材育成事務（職員研修事業、職員の能力を活かす人事）
くらしと 行財政	1 ビューティフル・ウィンドウズ運動（地域防犯力の向上・防犯まちづくり事業） 2 エネルギー対策の推進（温室効果ガス排出削減） 3 ごみの減量・資源化の推進 4 健康寿命を延ばす介護予防・生活支援事業 5 生活困窮者自立支援事業 6 健康あだち 21 推進事業（糖尿病対策） 7 協創推進コーディネート強化（人づくり・場づくり）
まちと行財政	1 地域と一体となった震災・水害対策 2 燃えにくいまちづくりの推進 3 揺れに強い建物の促進 4 スムーズに移動できる交通環境の充実（バス・自転車走行環境の整備） 5 町会・自治会の活性化支援 6 シティプロモーション事業
一般事務事業	1 文書管理事務 2 読書活動推進事業 3 ボランティアセンターの管理運営事務 4 高齢者入浴事業 5 密集地域整備管理事務 6 学校 ICT 推進事業 7 子育て活動支援事業

総務委員会報告資料

令和6年9月26日

件名	多子世帯支援等を検討するためのアンケート調査の実施（案）について																						
所管部課名	政策経営部 政策経営課																						
内 容	多子世帯への支援等を検討するためのアンケート調査経費について、9月補正予算に計上している。9月補正予算の議案が認められた際には、以下のとおりアンケートを実施する。 1 調査目的 以下（１）（２）を通じて効果的な施策の検討・展開につなげていく。 （１）多子世帯が必要としている支援の把握（子育てが一段落している世帯にも過去を振り返ってもらい、当時必要としていた支援を聞く） （２）多子世帯に限らず、既に子どもがいる世帯において、理想の子どもの人数を持つことができていない状況や要因の把握 2 アンケート調査概要 <table><tr><td></td><td>【今回のアンケート】</td><td>【参考：R4 出産・子育てに関するアンケート】</td></tr><tr><td>対象</td><td>(1)子育てをしている世帯 (2)子育てが一段落した世帯（※1）</td><td>婚姻・子どもの有無を問わず、20～50代（子育てを終えた方も含む）</td></tr><tr><td>調査方法</td><td>無作為抽出調査</td><td>モニター調査（※2）</td></tr><tr><td>規模</td><td>アンケート送付数：6,000世帯 （回答率30%想定：1,800世帯）</td><td>1,000人 （調査会社モニター登録者）</td></tr><tr><td>回答方法</td><td>WEB・紙回答の併用</td><td>WEB回答</td></tr><tr><td>時期</td><td>令和6年12月予定（約3週間）</td><td>令和4年9月（1週間）</td></tr><tr><td>備考</td><td>アンケート項目は11月閉会中総務委員会で報告予定</td><td>—</td></tr></table> （※1） 今回のアンケートでは、一番下の子（子ども1人の場合はその子）が16～22歳（高校生・大学生相当の年齢）の世帯を「子育てが一段落した世帯」として位置付け、この世帯には過去を振り返って回答いただくことも想定している。 なお、一番下の子の年齢が23歳以上になっている世帯については、子育て当時に比べ、現在はライフスタイルや働き方等が多様化しており、必要とする支援にギャップがあるのではないかと判断で、アンケート対象外とした。 （※2） 調査会社に登録されている足立区在住の方を対象として意見を集める方法。			【今回のアンケート】	【参考：R4 出産・子育てに関するアンケート】	対象	(1)子育てをしている世帯 (2)子育てが一段落した世帯（※1）	婚姻・子どもの有無を問わず、20～50代（子育てを終えた方も含む）	調査方法	無作為抽出調査	モニター調査（※2）	規模	アンケート送付数：6,000世帯 （回答率30%想定：1,800世帯）	1,000人 （調査会社モニター登録者）	回答方法	WEB・紙回答の併用	WEB回答	時期	令和6年12月予定（約3週間）	令和4年9月（1週間）	備考	アンケート項目は11月閉会中総務委員会で報告予定	—
		【今回のアンケート】	【参考：R4 出産・子育てに関するアンケート】																				
	対象	(1)子育てをしている世帯 (2)子育てが一段落した世帯（※1）	婚姻・子どもの有無を問わず、20～50代（子育てを終えた方も含む）																				
	調査方法	無作為抽出調査	モニター調査（※2）																				
	規模	アンケート送付数：6,000世帯 （回答率30%想定：1,800世帯）	1,000人 （調査会社モニター登録者）																				
	回答方法	WEB・紙回答の併用	WEB回答																				
	時期	令和6年12月予定（約3週間）	令和4年9月（1週間）																				
	備考	アンケート項目は11月閉会中総務委員会で報告予定	—																				

3 対象世帯の抽出イメージ



4 スケジュール（予定）

令和6年11月	総務委員会にアンケート項目を報告
12月	アンケート実施
令和7年1月	アンケート結果の速報値・簡易分析
2月	総務委員会に速報値等を報告
3月末	アンケート結果報告書の完成
4月	総務委員会にアンケート結果を報告

5 今後の方針

- (1) 今よりさらに子どもを持つか・持たないかの選択は、個人の価値観や意向が最大限尊重されるべきものであるため、その点に配慮をしてアンケートを実施していく。
- (2) アンケート名称に「多子世帯」という言葉が入ると、自身が多子世帯に該当している認識がない世帯からの回答が得にくくなることが想定されるため、一般的な子育てに関するアンケートとして実施予定である。
- (3) アンケート結果を踏まえ、必要な支援策については、議会と相談しながら早期の実施を検討する。

総務委員会報告資料

令和6年9月26日

件名	基本計画策定状況及び今後の予定等について
所管部課名	政策経営部 基本計画担当課
内容	足立区基本計画審議会から答申が提出された。また、小・中学生を対象にまちの将来像等に関して意見聴取を実施した。ついては、内容等に関して報告するとともに、答申及び聴取内容を計画に反映できるよう検討を進めていく。 1 足立区基本計画審議会答申について 令和6年9月4日付、足立区基本計画審議会から新たな基本計画に関する答申を受領した。 (1) 答申の内容 別添資料「新たな足立区基本計画について（答申）」参照 (2) 答申の主なポイント 新たな基本計画全体を貫く、基礎となる理念について、次のとおり示された。 ア 協創のさらなる推進 イ 区民の「やってみたい」の後押し ウ 暮らしを守り、ウェルビーイングを高める エ 人権・多様性の尊重と地域共生社会の実現 オ 子ども・若者とともに進めるまちづくり カ 地域特性に応じた施策の展開 キ まち全体で災害対策・環境対策を推進 ク SDGs の視点を反映 2 子どもの意見聴取の実施結果について 基本計画策定にあたり、子どもの声を計画内容に反映することを目的として、小・中学校の児童・生徒を対象にオンライン申請システムを活用して意見聴取を実施した。 (1) 意見聴取期間 令和6年4月19日から令和6年7月31日まで (2) 回答者数 335名 (3) 意見聴取結果 別紙1～3参照 (4) 児童・生徒へのフィードバック 基本計画、区ホームページ等に意見の反映結果や意見提出への感謝のメッセージ等を掲載する。

3 計画策定までのスケジュール（予定）

足立区基本計画審議会からの答申、パブリックコメント等の結果を受け、令和6年度中に新たな基本計画の策定を行う。

予定時期	内 容
令和6年11月	パブリックコメント ※ 下記計画について同時実施 （1）基本計画 （2）国土強靱化地域計画 （3）地域ビジョン・地方版総合戦略
令和7年1月	パブリックコメント結果 総務委員会報告予定
令和7年2月	新計画策定 総務委員会報告予定 ※ 下記計画と一体的に策定 （1）基本計画 （2）国土強靱化地域計画 （3）地域ビジョン・地方版総合戦略

4 今後の方針

基本計画、国土強靱化地域計画、地域ビジョン・地方版総合戦略の策定状況等については、引き続き、総務委員会において報告を行っていく。

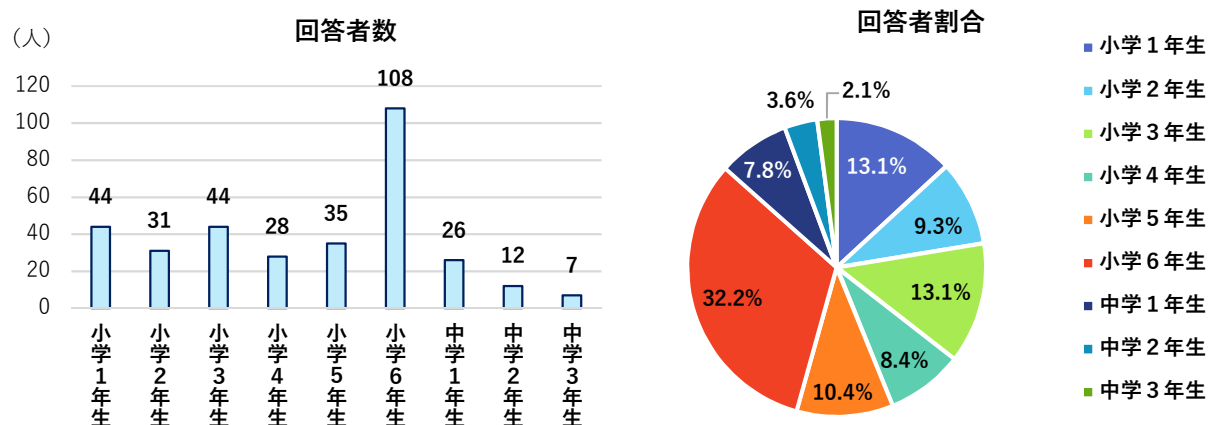
子どもの意見聴取 回答結果について

1 実施概要

回答期間	令和6年4月19日（金）～令和6年7月31日（水）
対 象 者	区立小・中学校の児童・生徒
実施方法	（1）回答方法 児童・生徒のタブレット端末から回答 （2）周知方法 C4th Home&School を通じ、保護者に対して児童・生徒へ回答を促すよう協力を依頼
回答者数	335名
設 問	別紙2 参照

2 回答者属性

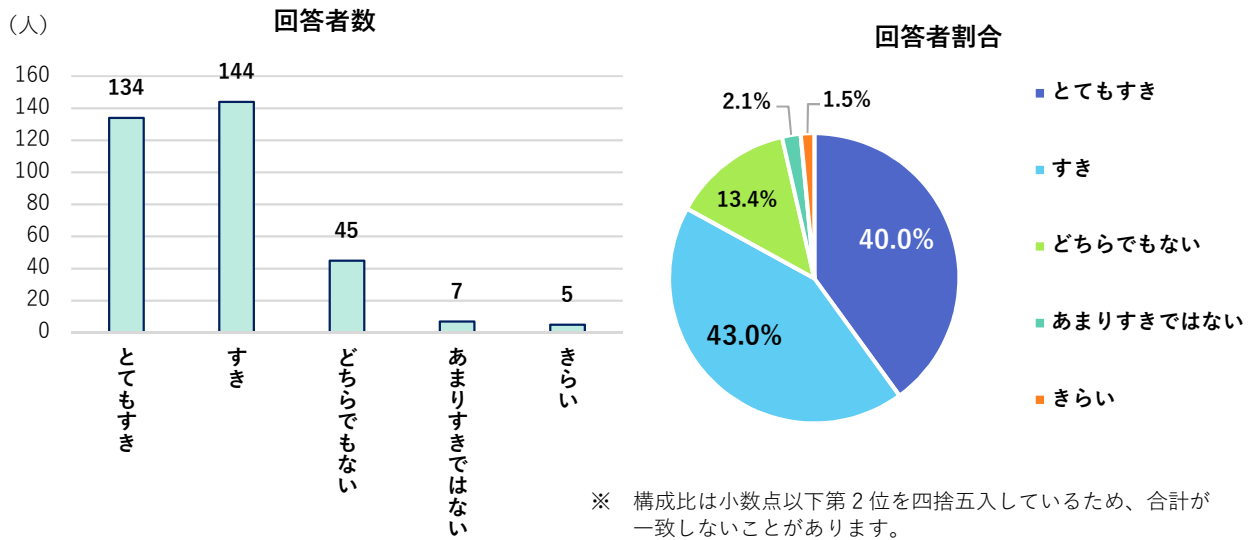
- （1）瀏江小学校6年生を対象に出前授業を実施したため、小学6年生の回答が突出して多くなっています。
- （2）回答者の86.6%を小学生が占めています。



※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

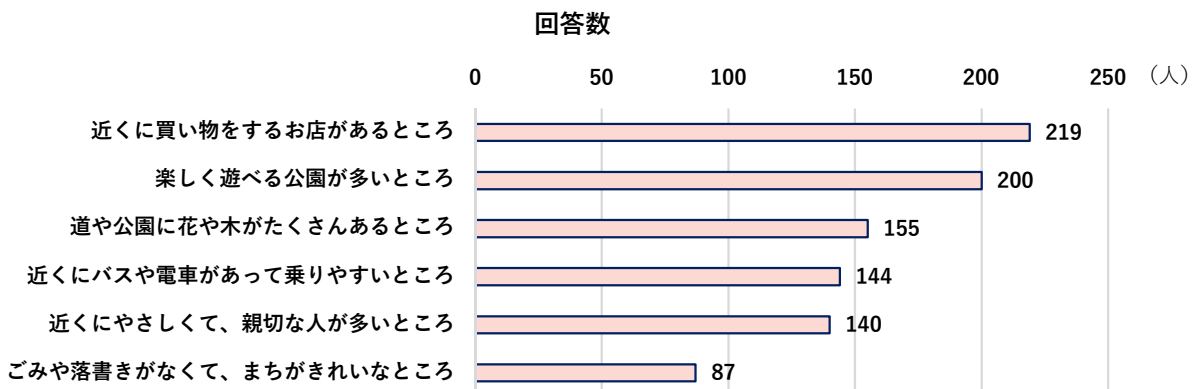
3 まちの印象

- (1) 「とてもすき」「すき」と回答した割合は、全体の 83.0%を占めています。
- (2) 「あまりすきではない」「きらい」と回答した割合は、全体の 3.6%となっています。



4 まちの好きなところ（複数回答可）

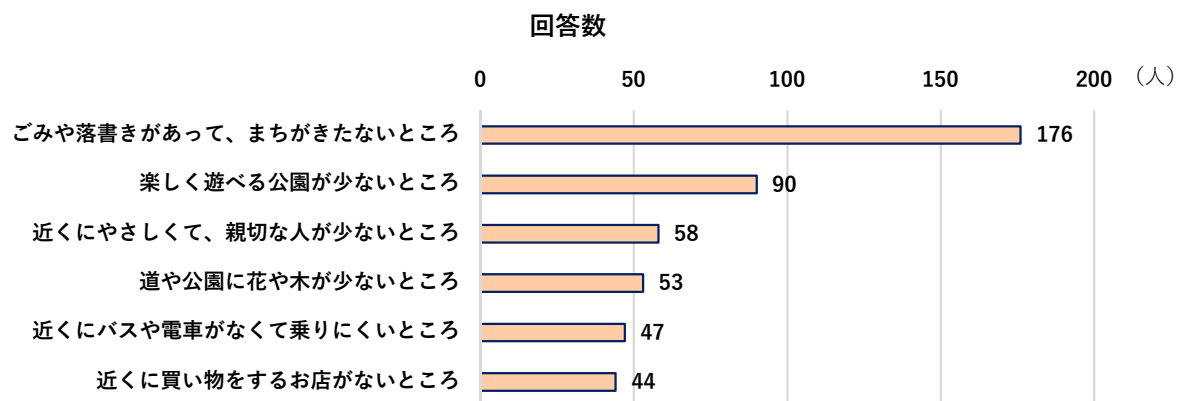
- (1) 「近く買い物をするお店があるところ」と回答した人数が最も多くなっています。
- (2) 「ゴミや落書きがなくて、まちがきれいなところ」と回答した人数が最も少なくなっています。



5 まちの好きではないところ（複数回答可）

（１）「ごみや落書きがあって、まちがきたないところ」と回答した人数が最も多くなっています。

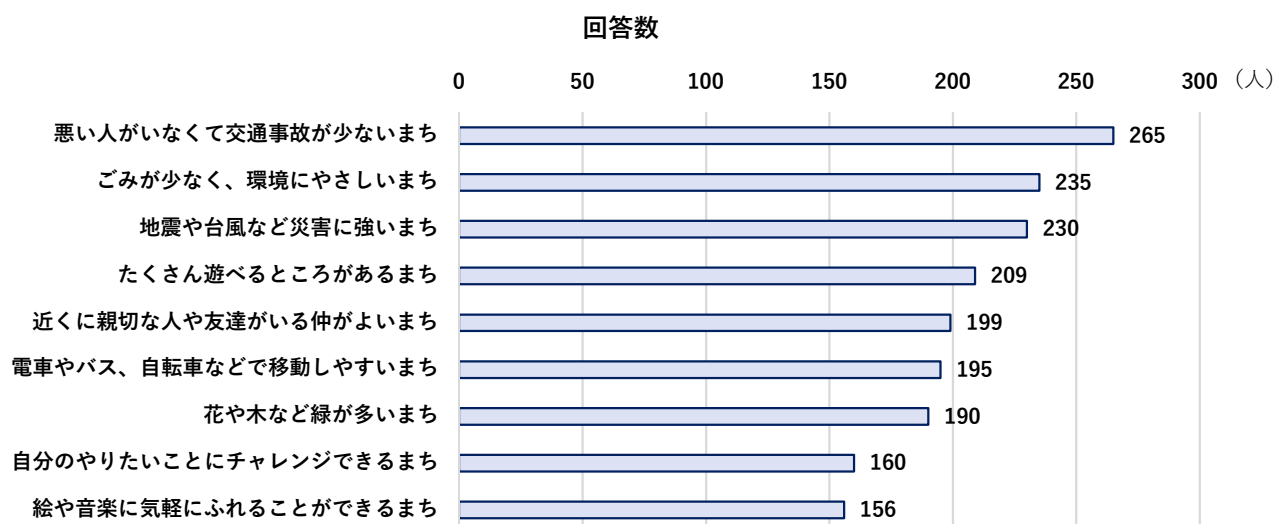
（２）「近くに買い物をするお店がないところ」と回答した人数が最も少なくなっています。



6 まちの将来像（複数回答可）

（１）「悪い人がいなくて交通事故が少ないまち」と回答した人数が最も多くなっています。

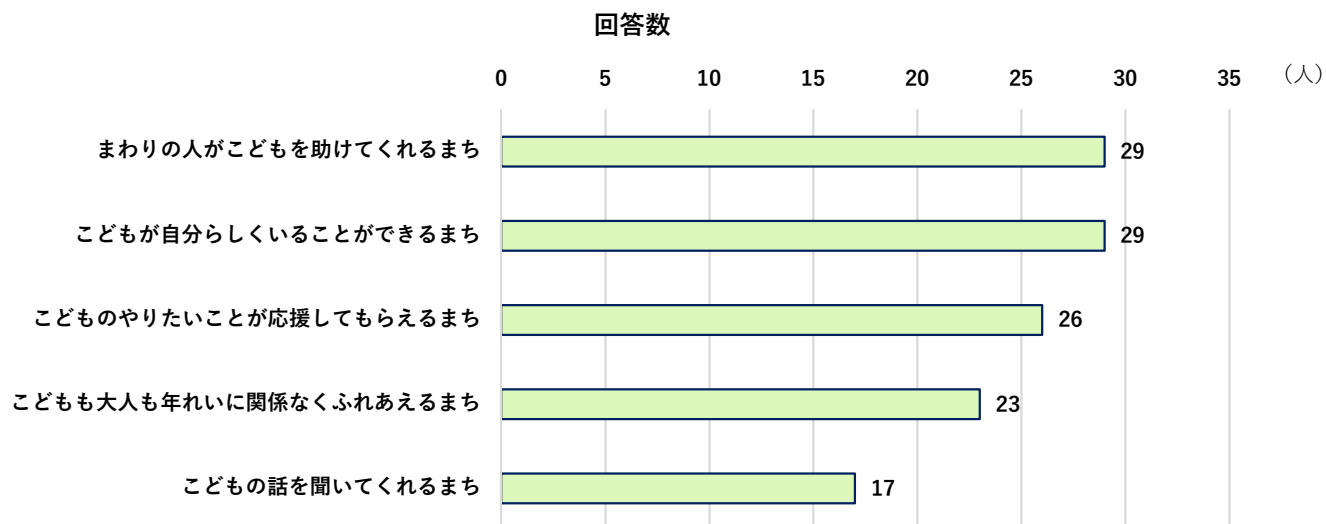
（２）「絵や音楽に気軽にふれることができるまち」と回答した人数が最も少なくなっています。



7 こどもにやさしいまち（複数回答可） ※ 中学生のみ回答

（１）「まわりの人がこどもを助けてくれるまち」と回答した人数が最も多くなっています。

（２）「こどもの話を聞いてくれるまち」と回答した人数が最も少なくなっています。



8 主な自由意見

別紙 3 参照

質問
(1) あなたの学年をおしえてください。
(2) あなたの住んでいる地域をおしえてください。
(3) あなたは、いま住んでいるまちが、好きですか？
(4) あなたが、いま住んでいるまちの、好きなおところをおしえてください。
(5) あなたが、いま住んでいるまちの、好きではないところをおしえてください。
(6) 将来、あなたは足立区にどんなまちになってほしいか、おしえてください。
(7) あなたは、こどもにやさしいまちは、どんなまちだとおもいますか。
(8) あなたが、このまちのリーダーだったら、まちをよくするために、どんなことをしますか。
(9) 将来、あなたは、どんな活躍をしたいですか。
(10) 将来、あなたは、どんな夢をかなえたいですか。
(11) さいごに、あなたが、大人に伝えたいことはありますか。

	選択肢	備考
—	小学 1 年生	
	小学 2 年生	
	小学 3 年生	
	小学 4 年生	
	小学 5 年生	
	小学 6 年生	
	中学 1 年生	
	中学 2 年生	
	中学 3 年生	
—	地域を選択	※ 未選択可
—	とてもすぎ	※ 単一回答
	すぎ	※ 単一回答
	どちらでもない	※ 単一回答
	あまりすぎではない	※ 単一回答
	きらい	※ 単一回答
—	ごみや落書きがなくて、まちがきれいなところ	※ 複数回答可
	楽しく遊べる公園が多いところ	※ 複数回答可
	近くにやさしくて、親切な人が多いところ	※ 複数回答可
	近くに買い物をするお店があるところ	※ 複数回答可
	近くにバスや電車があって乗りやすいところ	※ 複数回答可
	道や公園に花や木がたくさんあるところ	※ 複数回答可
	そのほか（自由記入）	※ 複数回答可
—	ごみや落書きがあって、まちがきたないところ	※ 複数回答可
	楽しく遊べる公園が少ないところ	※ 複数回答可
	近くにやさしくて、親切な人が少ないところ	※ 複数回答可
	近くに買い物をするお店がないところ	※ 複数回答可
	近くにバスや電車がなくて乗りにくいところ	※ 複数回答可
	道や公園に花や木が少ないところ	※ 複数回答可
	そのほか（自由記入）	※ 複数回答可
—	自分のやりたいことにチャレンジできるまち	※ 複数回答可
	たくさん遊べるところがあるまち	※ 複数回答可
	近くに親切な人や友達がいる仲がよいまち	※ 複数回答可
	花や木など緑が多いまち	※ 複数回答可
	ごみが少なく、環境にやさしいまち	※ 複数回答可
	地震や台風など災害に強いまち	※ 複数回答可
	悪い人がいなくて交通事故が少ないまち	※ 複数回答可
	絵や音楽に気軽にふれることができるまち	※ 複数回答可
	電車やバス、自転車などで移動しやすいまち	※ 複数回答可
	そのほか（自由記入）	※ 複数回答可
—	こどもの話を聞いてくれるまち	※ 複数回答可・中学生のみ
	まわりの人がこどもを助けてくれるまち	※ 複数回答可・中学生のみ
	こどもも大人も年れいに関係なくふれあえるまち	※ 複数回答可・中学生のみ
	こどものやりたいことが応援してもらえるまち	※ 複数回答可・中学生のみ
	こどもが自分らしくいることができるまち	※ 複数回答可・中学生のみ
	そのほか（自由記入）	※ 複数回答可・中学生のみ
—	自由記入	※ 中学生のみ
—	自由記入	※ 中学生のみ
—	自由記入	※ 中学生のみ
—	自由記入	※ 中学生のみ

※ 原文のまま記載しています。

※ 設問7「あなたは、こどもにやさしいまちは、どんなまちだとおもいますか。」以降は、中学生以上を対象とした設問ですが、参考に小学生が記入した内容も掲載しています。

まちの好きなところ

- ☐ 住んでいる町が好きな人が多いこと（小学1年生）
- ☐ 公園の植木や、街の公園をキレイにしてくれる活動をよくしているところ（小学3年生）
- ☐ あいさつが町につねにとんでいるところ（小学4年生）
- ☐ 学校の給食が美味しくて、学校が楽しい（小学6年生）

まちの好きではないところ

- ☐ 公園あっても自由に遊べない。ダメなことばかり書いてある。（小学1年生）
- ☐ 歩きタバコ、自転車タバコが多い。臭い。（小学1年生）
- ☐ 自分のことしか考えてない人が多い。交通ルールを守らない人が多い。怖い。（小学3年生）
- ☐ 通学路にたまにゴミが落ちている。（小学4年生）

まちの将来像

- ☐ どのうちにもたいようがいっぱいあたるあかるいまち。（小学1年生）
- ☐ 子供が色々きめられる。（小学2年生）
- ☐ 足立区に住んでいて羨ましい！と思ってもらえるような、足立区になってほしい。（小学3年生）
- ☐ 平和なまち(犯罪やいじめが無いまち)（小学3年生）
- ☐ お金が無いからと、進学を諦めないでよいまち。（小学4年生）
- ☐ 住んでる所が足立区だと隠さなくていい。（小学5年生）

こどもにやさしいまち

- ☐ 何でもダメと言われない。下手でも笑われない。（小学2年生）
- ☐ 子どもが楽しく、差別などいじめなく暮らせるまち（小学6年生）
- ☐ 差別・格差のない町（中学3年生）

将来、どんな活躍をしたいか

- ☐ メジャーリーガーになってホームランを打つ。（小学2年生）
- ☐ 発明とか政治家とかゲーマーあとみんなの笑顔が見られる仕事（小学5年生）
- ☐ この街に貢献する仕事をしたい。（小学6年生）
- ☐ 世界の良いところを取り入れて、日本の良いところを世界に伝えてより良い暮らしをみんなが出来たらと思います。（中学1年生）

将来、どんな夢を叶えたいか

- ☐ えいごが話せるようになり、世界中の人と話してみたい。小学2年生）
- ☐ 私の夢はトリマーなので愛犬と公園でイベントがしたい。（小学3年生）
- ☐ 人を笑顔にする職に就く夢（小学6年生）
- ☐ 歌手だけどただの歌手じゃなくて大谷翔平みたいに子供の夢を叶えたりしたい。（小学6年生）
- ☐ 科学者になって日本の科学技術の発展のために尽くしたいです。（中学1年生）
- ☐ 今は夢がない。まだ、わからないけどアニメ系で、何かしたい。（中学2年生）

このまちのリーダーだったら

- ☐ 災害のないまちにしたい。（小学2年生）
- ☐ 街全体の学力を上げるため義務教育を高校までにしたい。（小学6年生）
- ☐ まちの人が、「こんなまちにしたい」とおもうことをさせたい。（小学6年生）
- ☐ 北区、墨田区みたいな屋内のアスレチックプールを作ります。運動がシーズンごとに様々な運動ができる体育館みたいなアスレチックを作ります。一生の趣味を見つけられるように色々なスポーツができるよう促します。身体を動かす楽しいところがあれば治安もよくなると思います。（中学1年生）
- ☐ 子供が無料であそべる場所をたくさんつくる。（中学2年生）
- ☐ 公園の花壇に季節の花を植えて皆んなの癒しの場所を沢山作りたい。（中学3年生）

大人に伝えたいこと

- ☐ 勉強ができなくてもそんなに怒らないでほしい。（小学2年生）
- ☐ 子供だからできないって言わないで。（小学2年生）
- ☐ 昔の足立区よりかはよくなってることを伝えたい。（小学6年生）
- ☐ 大人が信号無視をしていたら子供が真似するからやめてほしい。（小学6年生）
- ☐ 大人は仕事とかあってすごく大変そうでほとんどの人があまり地域のことまで考えられないと思います。ポイ捨てしたりとかする人もいます。でも子供もがんばっています。もちろん、子供でもルールを破ったりポイ捨てしたりする人もいるかもしれない。でもそれは大人からの影響を受けていることもあると思います。（小学6年生）
- ☐ 大人も子供も同じ人間だから、一緒に遊んだり、おしゃべりしたり、楽しく過ごしたい。（中学1年生）
- ☐ 将来の夢を無理やり考えさせるのをやめてほしい。小さい頃から将来の夢を持っていない子だって山ほどいるのになんでもいいから書いてみてって言われて他の子を真似したりするのは結局その子のためになってないと思う。（中学1年生）
- ☐ 子供の意見もきちんと取り入れてくれる町作りをして欲しい。（中学3年生）

総務委員会報告資料

令和6年9月26日

件名	SDGs職員意識調査アンケート結果について													
所管部課名	政策経営部 SDGs 未来都市推進担当課													
内 容	令和6年5月に実施した「SDGs職員意識調査アンケート」結果を以下のとおり報告する。													
	1 実施目的													
	全庁を挙げてSDGs推進に取り組む風土を醸成するとともに、SDGsを共通語にして庁内連携に取り組む職員の意識向上を図っていく。													
	2 アンケート構成													
	(1) 業務におけるSDGsへの意識 10問													
	(2) 日ごろ取り組んでいるSDGs 17問													
	(3) 庁内連携に対するイメージ 7問													
	(4) 庁内連携に感じるハードル 11問 合計 45問													
	3 アンケート対象者・回答率													
	(1) 実施期間													
令和6年5月8日（水）～31日（金）														
(2) 対象者														
常勤職員は回答必須、会計年度任用職員は任意とした。														
<table><tr><td>種別</td><td>回答</td><td>対象者数</td></tr><tr><td>常勤職員</td><td>必須</td><td>3,322</td></tr><tr><td>会計年度任用職員</td><td>任意</td><td>1,056</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>4,378</td></tr></table>			種別	回答	対象者数	常勤職員	必須	3,322	会計年度任用職員	任意	1,056	合計		4,378
種別	回答	対象者数												
常勤職員	必須	3,322												
会計年度任用職員	任意	1,056												
合計		4,378												
(3) 回答者数・回答率														
常勤職員の回答率は、約84％に達した。会計年度任用職員を含む回答率は、約66％となった。														
<table><tr><td>種別</td><td>回答数</td><td>回答率</td></tr><tr><td>常勤職員</td><td>2,805</td><td>84.4%</td></tr><tr><td>会計年度任用職員</td><td>70</td><td>6.6%</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,875</td><td>65.7%</td></tr></table>			種別	回答数	回答率	常勤職員	2,805	84.4%	会計年度任用職員	70	6.6%	合計	2,875	65.7%
種別	回答数	回答率												
常勤職員	2,805	84.4%												
会計年度任用職員	70	6.6%												
合計	2,875	65.7%												

4 回答要旨・集計結果（一部抜粋）

詳細は別添資料

（１）業務におけるSDGsへの意識

ア 回答の要旨

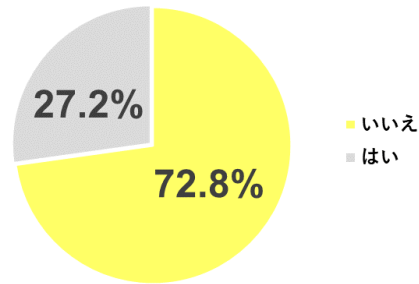
（ア）課の業務とSDGsの関連を意識している職員は約7割

（イ）自分の担当業務とSDGsの関連を実感している職員は約6割

イ 集計結果

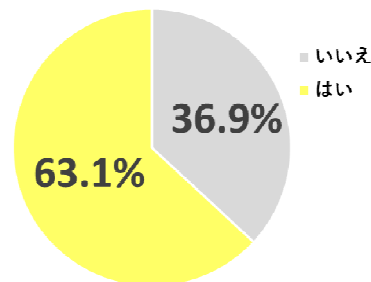
【設問】課の業務とSDGsとの関連を意識したことがない。

回答者全体



【設問】自分の担当業務はSDGsに関連していると思う

回答者全体



（２）日ごろ取り組んでいるSDGs

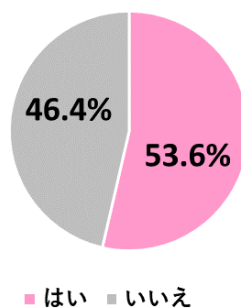
ア 回答の要旨

（ア）ペーパーレス化を意識している職員は約7割

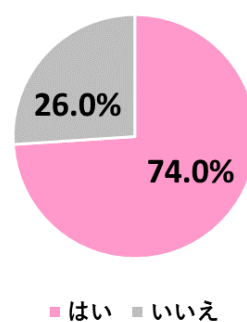
（イ）災害時における自分の役割を意識している職員は約7割

イ 集計結果

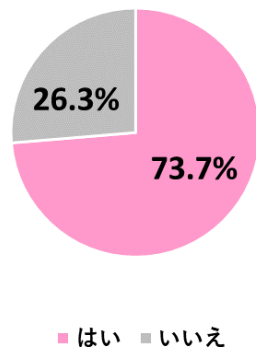
備品・消耗品を再利用している
または、不用品を譲っている



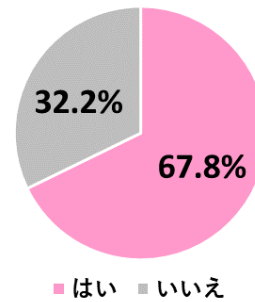
ペーパーレスを意識して、
メールやロゴチャットを活用している



災害時における自分の役割を意識している



育休、病休、育児短時間など多様な働き方をしている職員をフォローしている



(3) 庁内連携に対するイメージ

ア 回答の要旨

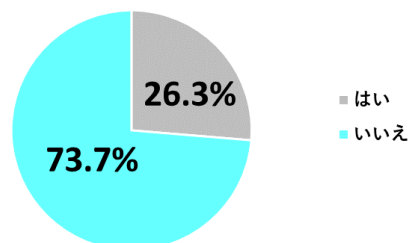
(ア)「難しい・面倒くさい」等のマイナスイメージを持った職員は少ない。

(イ) 顔が繋がるという意味で、庁内連携をポジティブに捉える声が多い。

イ 集計結果

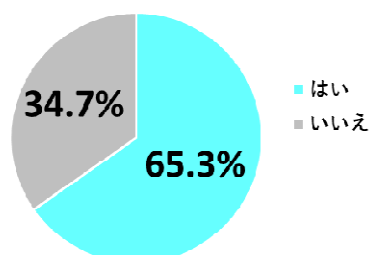
【設問】 庁内連携は難しい、面倒くさい、余計な仕事が増えそう

回答者全体



【設問】 部署や職種を超えて、庁内に人脈が広がる

回答者全体



(4) 庁内連携に感じるハードル

ア 回答の要旨

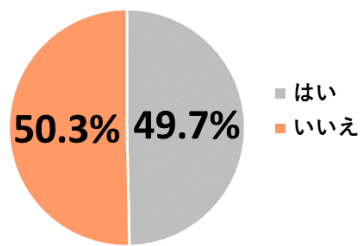
(ア) 庁内連携を意識している職員は約 5 割

(イ) 約 4 割の職員（特に若手職員）が、「他部署の業務を知らない・知る機会がない」と回答。

イ 集計結果

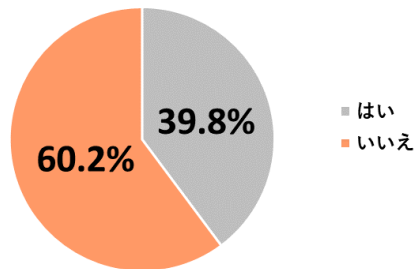
【設問】 仕事をするうえで、庁内連携を意識している

回答者全体



【設問】 他部署の業務を知らないまたは知る機会がない

回答者全体



5 今後の方針

本アンケート結果を政策経営課及び人事課にも共有し、今後の取組に有効活用してもらうほか、庁内のSDGsに資する事業の進捗管理を通じて、庁内連携のモデルケースを作るための検討を行っていく。

総務委員会報告資料

令和6年9月26日

件名	生成AI「Google NotebookLM」の利用について
所管部課名	政策経営部 ICT戦略推進担当課
内容	文章生成AIについては、昨年7月より「ChatGPT」を利用しているところであるが、さらなる業務効率化のため、Googleが提供する生成AI「NotebookLM（ノートブックエルエム）」の試用を開始した。 1 NotebookLMの利点 ChatGPT等の生成AIサービスは、インターネット上の情報を学習データとして使用するが、NotebookLMは、ユーザーが指定したファイルを読み込んで学習データとする。 回答は読み込んだ学習データを元に生成されるため、見当違いの回答をする確率は、他のサービスと比較すると非常に低いものとなる。 2 費用 無償 3 利用用途 (1) 庁内の手引きやFAQを登録して、問い合わせ対応に使用する。 (2) 議事録等を登録して、過去の発言を検索して文章にまとめる。 4 ChatGPTとの活用分野の相違点 (1) ChatGPTは、一般的なアイデア出し、マクロのコード生成 (2) NotebookLMは、指定データからの情報抽出、文章生成 5 運用ルール 既に規定しているChatGPTの利用ルールを適用する。 (1) 個人情報や機密情報の登録を禁止する。 (2) 生成された文章は必ず正誤チェックする。 6 試用所属と検証内容 政策経営部及び総務部で「服務の手引き」等の事務処理マニュアルや担当職員が蓄積しているFAQを登録し、内部の問い合わせに適切な回答案を生成することで時間短縮を図る。 7 今後の対応 試用を経て、活用事例やアイデアをまとめた「利用ガイドライン」を作成し、全庁に展開する。

総務委員会報告資料

令和6年9月26日

件名	自治体情報システムの標準化・共通化に向けた進捗状況について					
所管部課名	政策経営部 情報システム課					
内 容	自治体情報システムの標準化・共通化にかかるシステム構築経費及びガバメントクラウドへの移行経費について現在の状況を報告する。					
	1 標準化・共通化システム導入経費について					
	既存システムを標準化・共通化システムに変更する「シフト」とガバメントクラウドへ移行する「リフト」にかかるイニシャル経費について、令和4年度から6年度までで既に契約した金額と令和7年度までに契約する予定の金額について下表にまとめた。					
	表1 標準化・共通化に伴う導入経費及び補助経費 (単位：千円)					
		契約済額	令和6年下期以降 契約見込額	交付決定済み 補助金額		
	小計	1,539,363	2,264,252	※738,328		
	合計	3,803,615				
	※ 国から提示のあった補助上限額は、36.2億円であり、今後も追加で補助申請を予定している。					
	2 3号補正予算の計上について					
	標準化・共通化を進めるなかで、追加の作業が必要となったため、以下のとおり補正予算を計上し、補正予算案が可決された際は作業を進める。					
(1) 標準化対象システム						
標準仕様書の更新にともない移行スケジュールの組み直しなどを行ったため予算の変更が必要となった。						
表2 標準化対象システムの補正予算一覧 (単位：千円)						
No	内容	当初予算額		補正予算額 (R6 債務負担)		補正後 総事業費
		R6	R7	R6	R7	
1	住民記録システム標準化対応	計上なし		0	229,453	229,453
2	税滞納システム標準化対応	R6	R7	R6	R7	55,317
		22,700	12,300 (R6 債務負担)	△11,700	32,017	

(2) 標準化対象外システム

標準化の対象ではない業務システムについても、以下の理由からガバメントクラウドへ移行するため経費が必要となった。

ア 標準化システムと同じ場所に構築することでデータ連携を簡便にし、連携障害のリスクを低減するため。

イ 今後、庁内でサーバー機器の管理を行わずに済むようになるため。

表3 標準化対象外システムの補正予算一覧

(単位：千円)

No	内容	当初予算額		補正予算額 (R6 債務負担)		補正後 総事業費
		R6	R7	R6	R7	
1	子ども家庭支援システムのガバメントクラウド移行	計上なし		3,600	4,320	7,920
2	訪問徴収・電話催告システムのガバメントクラウド移行	R6	R7	R6	R7	7,480
		計上なし		2,200	5,280	
3	福祉育英資金システムのガバメントクラウド移行	R6	R7	R6	R7	28,050
		計上なし		0	28,050	
4	学校保健統計システムのガバメントクラウド移行	R6	R7	R6	R7	25,102
		計上なし		10,010	15,092	
5	就学システム標準化対象外業務システム（就学相談）のガバメントクラウドへの構築	R6	R7	R6	R7	36,331
		計上なし		24,077	12,254	
6	保健衛生システム標準化対象外業務システム（特定健診、食品衛生等）のガバメントクラウド移行	R6	R7	R6	R7	16,500
		計上なし		3,960	12,540	

3 今後の方針等

(1) システムの運用経費については、ガバメントクラウドの利用料などが明らかになりつつあるため、令和7年度当初予算の積算を進める。

(2) 標準化の対応が状況に応じて柔軟に行えるような法整備や支援について、今後も国に対し粘り強く要望を続けていく（過去の要望は表4参照）。

表4 国に対して行った要望一覧

時期	要望元	要望先	主な要望内容
令和6年2月	特別区長会	総務省・デジタル庁	補助金の拡充および移行スケジュールの期限延長
令和5年11月	全国市長会	総務省・デジタル庁	
令和5年7月	全国市長会	総務省・デジタル庁	
令和5年3月	特別区長会	総務省・デジタル庁	
令和4年5月	足立区	デジタル庁	
令和4年4月	足立区	総務省・デジタル庁	
令和3年3月	足立区	総務省・デジタル庁	

総務委員会報告資料

令和6年9月26日

件 名	転入者向け冊子（あだち はじめてガイド）の発行について
所管部課名	政策経営部 報道広報課
内 容	これまで転入者及び希望者に配付していた「足立区行政サービス案内」に代わる「あだち はじめてガイド」の発行について報告する。 1 配付開始日 令和6年10月1日（火） 2 配付方法 （1）区民事務所及び戸籍住民課窓口で転入者へ配付 （2）希望者には、上記窓口及び住区センターで配付 ※ 高齢者や障がい者など来所が困難な方には郵送対応 ※ PDFデータをホームページに掲載するほか、電子ブック化し、スマートフォン等で簡単に閲覧できるようにする 3 発行部数及び経費 28,000部 約162万円（消費税込） 【参考】 令和5年度行政サービス案内 28,000部（今年度と同数） 約328万円（消費税込） 4 冊子の概要 A4判カラー、全24ページ（表紙、裏表紙含む） 5 掲載内容 （1）コールセンターの周知 （2）区長挨拶 （3）主要施設案内 区役所、区民事務所、福祉事務所・障がい福祉施設、保健所、地域包括支援センター （4）急病のときの診療所、窓口一覧 （5）足立区の魅力紹介 ※ 足立区の魅力を「食べる」「遊ぶ」「憩い」の3ジャンルで紹介 （6）町会・自治会の加入案内 （7）足立区オンライン申請の案内 （8）足立区LINE公式アカウント、A-メール、SNSの活用案内

	6 周知 あだち広報10月10日号、区ホームページ、X（旧Twitter）、Facebook、デジタルサイネージなどで周知する。 7 今後の取組み等 情報の更新頻度を検証し、来年度以降は隔年発行などを検討する。 8 【参考】これまでの経緯 （1）転入者の年齢構成では、主にインターネットを活用して情報を得る若い方が多い。 （2）転入者以外に配付を希望する方が少ない。 （3）上記を鑑み、検討を重ねた結果、現行の「足立区行政サービス案内」から足立区の紹介や窓口一覧などを抜粋した、「転入者向けリーフレット」を作成する方針を令和6年1月17日の総務委員会で示した。 （4）以降、掲載内容を検討し、今回の冊子方式とすることについて、令和6年6月25日の総務委員会で報告した。
--	--